

ぼくたち わたしたちが
あんなにして くらせる いえ
こどもたちの ねがい

社会福祉法人 中央有鄰学院

ゆうりんだより

特別編集号

発行:社会福祉法人 中央有鄰学院
発行日:平成 22 年 6 月 1 日
名古屋市緑区大高町洞之腰 20-1
TEL 052-621-2441 FAX 052-622-5509
児童養護施設 ゆうりん
乳児院 ほだか
ふれあいセンター おおだか



仮舎最後の日はみんなで記念撮影をしました

ほだか

5月初旬、それまで静かだったほだかが、笑いのある明るい空間に変わりました。ほだか一番初めの入所乳児となった1歳のY君は、笑顔が絶えずニコとする表情がとても印象的です。食欲は旺盛で、食べ物にほとと興味を持ち、ご飯やおやつが来ると手を合わせて「いただきます」のポーズをとり待っています。ご飯が足りず大泣きすることもあります。空っぽのお皿を見ると、「ごちそうさま」のポーズで手を合わすこともできるようになりました。

ちびっ子の集いにも参加するようになり、沢山の友達と関わる時間も増えました。Yくんから友達の近くに寄って行ったり、時にはおもちゃを取り合ったりと積極的に関わる姿も見られます。担当職員の姿が見えなくなると、泣いて探しまわるようなこともあります。その分、着実に職員との愛着関係が築けているようにも感じています。子どもが少しずつ入所してきたことで、今まで気が付かなかった危険箇所や様々な問題を職員同士共有し合うことができるようになってきました。まだまだこれからの施設ですが、日々子どもと一緒に成長しつつ、よりよい施設になるよう職員のチームワークを高めていきたいと思えます。現在は一人引き取りがあり、三名の乳幼児が生活しています。



あいち健康の森までサイクリング!



グレーメンの丘でみんなでバーベキューをしました。

ゆうりん

先日、小学校3年生のAくんにお風呂に入るよう声を掛けると「Bくん(高校生)と入りたいからもうちょっとだけ待っててもいい?」と返事が返ってきました。すぐにBくんが降りてきて一緒に入浴し始め、しばらくすると、キャッキヤという楽しそうな声が聞こえてきました。入浴後も一緒にカードゲームをして遊んでおり、そんな光景をみているとなんだかとても温かい気持ちになってきます。Bくんと話をすると「Aくんは俺と色々な所が似ていると思う。俺も小さい時はあんなにガリガリだったし、髪質も似てるし…。似ている部分があるのって、なんだかかわいく思えるんだよね～」と話してくれました。

AくんはBくんのことを頼って甘えたり、Bくんはそれに応えたりと、普段の2人の関わりをみていると、小舎の縦割り養育のなかで、疑似兄弟のような関係ができ、その中でしか体験できなかったり、感じる事のできない思いがあることを日々実感しています。そういった小舎ならではの関係や子どもたちそれぞれの思いを大切にしながら、子ども達の養育に取り組んでいきたいと思えます。

ふれあいセンターおおだか

4月26日(月)にふれあいセンターおおだかの「ちびっ子の集いオープニングセレモニー」を開催し、むらなが吟さんのギターの弾き語りや職員によるパネルシアターやリズム遊びを楽しんでいただきました。たくさんのお子さんや保護者の方に参加して頂き、賑やかな会になりました。

「ちびっ子の集い」には毎回たくさんのお子さんと保護者の方に参加して頂き、リズム遊びをしたり、手遊びをしたりしています。今は7月6日の七夕会に向けて、七夕飾りをお母さんと一緒に作っています。ちびっ子の集いが始まったばかりの時は「ママ～ママ～」とお母さんの後ばかり追っかけていた子ども達も今ではすっかり、ふれあいセンターの職員に慣れ、ママではなく、職員を呼びに来ってくれるようになりました。「ハイハイ～イ！」と嬉しい悲鳴です。これからも仲良くしてね。



ふれあいセンター大盛況です！



みんなで花壇に苗を植えました。

まいにちのたのしみ

ゆうりんの園庭には、各小舎ごとに家庭菜園ができる花壇があり、新しい生活の始まりと共に、花や野菜・果物の苗をみんなで植えて育てていくことになりました。

登校前の水やりの際には、作物の状態を見て「もう腰の高さまで大きくなったよぉ～」や「あ！小さい胡瓜ができてる！」と子ども達の声がよく聞こえてきます。確実に成長していく作物を目の当たりにすることで、日々愛着も深まっているようで、自分達で育てた野菜や果物が食べられるという楽しみもまた大きいようです。

ある日、菜園の近くでボール遊びをしている子がいると、毎朝菜園に水をやり大切に育ててきた子が「この近くでボールを蹴ったらトウモロコシが折れちゃうから！」と必死に守っている姿が見られました。

また、各部屋で食事を作る誕生会では、菜園で採れたレタスでサラダを作りました。自分達で育てたものを自分たちで採って食べるという経験により、食べ物かどのような過程を経て食卓に並ぶのかということにも興味を持つようになってきたようです。



新しい建物を祝って乾杯しました。



アリスはみんなの憩いの場

あたらしくなって…厨房

新しくなったゆうりんの厨房は、喫茶ルームでもある「アリス」に隣接し、大きく広がる窓から厨房での調理の様子を覗くことができます。そして厨房からも子ども達が外で元気に遊ぶ様子を見ることができます。このガラス張りであることが、新しくなった建物の大きな魅力です。

以前の建物の頃に比べ「今日の夕飯なに？」や「それは何をしているところ？」と食や調理について興味を持って尋ねてくる子どもが非常に多くなりました。調理の場を目の前で見られる環境があるからこそ、このような会話が生まれてくると思いますし、これらの環境が活きて、より一層「食」に興味をもっていただければと感じています。